みんなの居場所でもちつき大会

下諏訪ぎがし

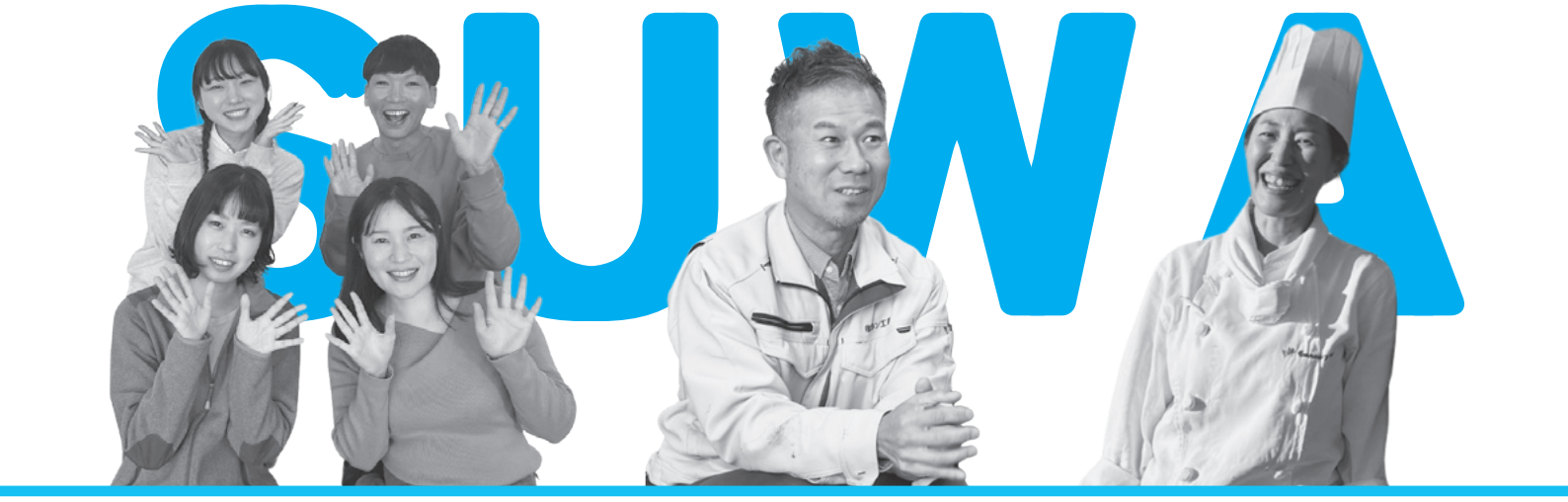
Vol.46

2024
12月定例会

特集2・3P

街角インタビュー拡大版！
あの人この人に聞いてみた

議員が街に出て皆様の声を聴こうと企画しました。町の活性化に必要なものは？などをテーマに、いろいろな場面で活躍する方々にインタビューしました。移住者の立場で、企業人の立場で、また活性化を企画する人などたくさんの方がいます。一部ではありますが、ご紹介します。



地域おこし協力隊 ～移住定住チーム～

池田　月音さん　藤原　裕太さん　三地澤陽香さん　濱野みのりさん

下諏訪にしかない魅力をPR

三地澤　下諏訪町は居心地がよく、優しい人が多いと感じます。諏訪湖周辺に行く道の整備などができたらいいですね。

藤原　下諏訪町はとても魅力的ですが、もっと活かしていきたいです。小布施町のように大胆な発想で、ウォーカブルなまちづくりができたらいいですね。

濱野　観光の滞在時間が短く、下諏訪の魅力を伝えきれていないと感じます。生活基盤を作り難いため、関係人口の増加を考えることも必要です。下諏訪にしかない価値の掘り起こしができたらいいですね。

池田　２拠点生活もでき、田舎過ぎないコンパクトさが良く、地元の方々とのコミュニケーションを大切にしたいです。

移住定住PR費等の予算増額や空き家改修の積極支援等の課題もいただきました。（林・竹元）

下諏訪商工会議所青年部会長
㈲グラン工業専務取締役

笠原 博人さん

町の良さを活かして

町の活性化に必要なものは

学生がこの町から都会へ出て様々な経験を積むことはとても良いことと思いますが、自然豊かで、ゆとりある田舎の魅力をもっと開拓・発信して、彼等との「関係人口・交流人口」を増やすことが有用だと思います。

将来の町はどうあって欲しいか

町民1人1人の生活への自己評価や人生への幸福感や満足感が高い町、ウェルビーイングの高い町になれば、移住者や関係人口が増えると思います。

町のおすすめスポットは

魅力的な店が下諏訪にはいっぱいあります。例えばちいとこ商店で軽くビールを引っかけ、千ひろで蕎麦を食べ、御湖鶴で日本酒を飲み、結びの木のバウムクーヘンや新鶴の塩羊羹をお土産に買って帰る等はどうでしょうか。（髙橋・豊島）

キャナリィロウ パティシエ

小口 るみさん

諏訪娘マミーズと共に

現在キャナリィロウ諏訪湖畔店で腕を振るう小口るみさんに下諏訪の良さをお聞きしました。諏訪湖はあるし、温泉もあるし、富士山も見られるし、子どもを育てやすく住み心地がいい町です。子どもが中学校のボート部に入ったのをきっかけにボートを始め、「諏訪娘マミーズ」で13年になります。最初は大会に出ても予選敗退していたけれども、一生懸命練習を続けて多くの賞をいただきました。諏訪湖の周りにジョギングコース、サイクリングロードがあり素晴らしい環境です。スポーツを通して諏訪湖周を盛り上げたい。もっと町に若い人が集まってほしいし、空き家の活用や福祉などの教育機関ができると町おこしになり、交流が生まれると思うと語られました。（大橋・野沢）

街角インタビュー拡大版！

あの人この人に聞いてみた SHIMO

kenken レストラン オーナー

坂本 賢一さん

来ると何か楽しい街に

下諏訪町の活性化には、個々の活動を連携し、町全体で一体感を持つことが重要だと思います。個人や法人の努力には限界があるので、町と商工会議所とが一丸となって取り組むことが必要。「下諏訪が盛り上がっている」と、訪れる人が増えている今がチャンスです。現状を把握するために意識調査を行い、目標を設定し、近隣からの来訪者を増やす仕組みを整えることが求められます。『観光以外でも下諏訪に来ると何か楽しめる街』として、商工業の魅力を発信し、町全体がレベルアップするといいですね。おすすめスポットは諏訪湖周辺で、八ヶ岳やアルプスの景色を楽しみながら走れる絶好の場所です。特に冬の富士山の美しさは格別です。

（髙橋・豊島）

マスヤゲストハウス オーナー

比留間 希生子さん

深呼吸すると心が穏やかに

マスヤゲストハウス経営者の比留間希生子さんは茅野市の生まれ。下諏訪は山が近く、冬の諏訪湖を見ながら深呼吸すると心が穏やかになります。Uターンして開業したきっかけは、あそこに行ったら何か情報が手に入る、そんな場所があったらいいなぁと思ったこと。近所のお店の人と親しくなって里帰りのような感覚でまた会いに来たり、下諏訪に魅力を感じて移住したくなったり、旅行と移住の間を繋ぐような役目をしています。大きな店の誘致より、個人でもオモシロイ店・好きなことを仕事にしていく、暮らしの満足度の高いほうが町として魅力的です。自営業をしながらの子育てで、保育士さんにはいつもお世話になっています。保育士さんの待遇改善を望んでいます。

（大橋・野沢）

下諏訪観光案内所 所長

小松 直人さん

熱い男が語る下諏訪

下諏訪への郷土愛がとにかく熱い。防災ネットワークしもすわのアドバイザーで漫才もこなす下諏訪観光案内所の所長や旅館組合の事務局も務める小松直人さん。観光の現状について、歴史文化などを生かしきれていないと言いきります。もっと下諏訪の良いところはいっぱいある、それを発信したい。インバウンドにも力をいれて欲しい。観光グッズ「温泉娘」なども人気だが、下諏訪の関連グッズが少ない。もっと観光商品の開発をして欲しい。本当のところ可能ならば、やはり100人位宿泊できるホテルが必要で、官民が協力して出来たら良いですね。また 高齢者が外に出て交流できて、もっと住みやすい町になれば良いですねと話されました。

（林・竹元）

議員が注目の議案！

9議案・追加10議案を審議
全議案同意・可決へ

詳しくは議会HPへ

老人福祉センター条例の一部改正
夕方以降の入浴料金値上げへ

人件費や光熱水費が高騰し、入浴施設の維持管理が難しいことから町内の公衆浴場事業者で構成される「五湯会議」で値上げを協議。夕方以降の入浴料が他の温泉施設と同様に値上げされる。

反対意見　2年前にも値上げをしており、来年度値上げとなった場合、合わせると大人、子どもともに25％以上の値上げとなる。人件費や光熱水費が高騰し、入浴施設の維持管理が難しいことは理解するが、町民の暮らしも物価高騰で大変厳しい状況であり、現在の料金を維持していただきたいので反対。

賛成意見　物価高騰の中、他浴場と歩調を合わせることは、やむを得ない状況であり、実質よりも値上げが抑えられているので賛成。

採決結果　賛成多数で可決

来年度から入浴料 大人300円に

国民健康保険税条例などの改正
国民健康保険税 後期高齢者保険料　納期が9期に変更

国保税及び後期高齢者医療保険料の普通徴収の仮算定の廃止に伴い、税及び保険料の納期が12期から9期となる。期間減少に伴い1期分あたりは増額となる。

改正理由は、仮算定と本算定を行うことにより、本算定で税額変更となった被保険者の理解を得ることが難しく、窓口での混乱を招いていた。郵送料、口座振替手数料等の経費節減にもつながる。

丁寧な広報、周知に努めていただくとともに、支払い困難な事例に対する丁寧な相談を望んだ上で賛成とし、全会一致で可決。

職員給与　引き上げへ

国の人事院勧告により、職員の給与に関する条例改正があった。本年の主な改正は、民間給与との格差を埋めるため平均3％の水準引き上げと期末手当の支給月数0・15月及び勤勉手当の0・1月の引き上げとなる。

一般会計予算決算審査特別委員会から

増額補正総額は約3千万円

主な内容は、家庭用ゼロカーボン補助金で、6種類の補助メニューのうち、これまでの申請件数が多かったものはLED照明27件、高効率給湯器25件、定置型蓄電池11件、太陽光発電設備10件であった。生ごみ処理機器設置補助金や補聴器購入補助金についても申請が増えており、増額補正された。

ゼロカーボン2050
しもすわ
shimosuwa

請願・陳情・意見書案の審査結果

請願　「選択的夫婦別姓制度導入を求める請願」

日本では、婚姻における夫婦別姓が認められないため、望まない改姓、通称使用、事実婚などによる不利益・不都合を強いられている人々が多くいる。世論調査でも60歳以下の年代の70％以上が制度導入に賛成している。戸籍制度との両立が可能で、機能や重要性は変わらない。選択肢が増えるだけである。よって、国および政府において、選択的夫婦別姓制度導入の民法改正を求めるもの。

反対意見　国家資格や企業で旧姓の併用や通称使用が認められている。家族の一体感を守るためにも、夫婦同姓を堅持し、通称使用を拡大することが良い。

賛成意見　通称使用は法律上の制度でなく、拡大するだけでは解決できない。男女がともに活躍できる社会を実現し、すべての人が尊重される社会をつくる為にも法制化は必要。

採決結果　賛成多数により採択されました。

請願の採択を受けて、竹元完奈議員から意見書案が提出され、賛成多数で可決。国および関係省庁に意見書を送付しました。

陳情　「国民健康保険財政への国庫負担の増額を求める陳情」

国保税は、高齢者や自営業者だけでなく、非正規雇用拡大のもと所得の少ない世代にとっても生活を圧迫している。国は低所得の方々の保険料の軽減措置として全国知事会等と協議して毎年約3400億円の財政支援を行っているが、さらなる財政支援の拡充が必要である。国保には他の保険にない均等割があり、子どもに係る均等割は子育て支援への逆行となっている。

よって全国知事会も求めている国民健康保険財政への国庫負担の増額を求めるもの。

反対意見　政府は2030年を目途に検討している。国会で論議されるべき。

賛成意見　県下一律国保税率改定が迫る中で、国保基盤安定には国による増額は不可欠だ。

採決結果　賛成多数により採択されました。

陳情の採択を受けて陳情と同様の趣旨で金井敬子議員から意見書案が提出され、賛成多数で可決。国および関係省庁に意見書を送付しました。

12月定例会　議案等賛否一覧

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ表示しています。

議案名等（省略）＼議員名（議席順）	議決等結果	樽川信仁	髙橋幸二	林吉広	花岡進	竹元完奈	大橋和子	金井敬子	豐島健之	野沢弘子	松井節夫	中山透	青木利子	林元夫
老人福祉センター条例の一部改正	可　決	／	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	○	○
選択的夫婦別姓制度導入の民法改正を求める請願	採　択	／	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
国民健康保険財政への国庫負担の増額を求める陳情	採　択	／	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○
選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書	可　決	／	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
国民健康保険財政への国庫負担の増額を求める意見書	可　決	／	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○

賛成者は「○」、反対者は「×」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

一般質問12の視点

「歩いて・見て・聴いた」こと「議員自身の提言」も交えて、町に考えを質す！

12月定例会では、複数人の議員グループで質問する代表質問と、個人議員の単独質問が行われました。あらゆる町の課題に、議員一人一人の目線で、執行部と真剣な議論を展開。今後の町の動向にも注目！

代表質問
- P6～7 防災・減災
- P8～9 生活支援

単独質問
- P9 学校教育
- P10 子育て支援
- P10 育休退園
- P11 二地域居住
- P11 不登校支援
- P12 身近な行政

皆さんはどのテーマに関心がありますか？

各議員のQRコードから一般質問の録画映像を見ることができます。
スマートフォン等からアクセスして、ぜひご覧ください。
全質問項目は、下諏訪町ホームページから見ることができます。

下諏訪町議会 議会中継チャンネル

一般質問

防災・減災

未来の会（みらいかい）

高橋 幸二
林 吉広
中山 透

前半　後半

災害医療計画の策定状況は

答弁 医師会、薬剤師会と協定を結んでいる

別指導付きのセミナーに参加。初動の大切さ、住民ニーズの把握、情報発信の大切さを学ぶ有効なセミナーであった。

非日常の事務処理対応

Q 災害医療計画の策定は。

A 総務課長 「災害時医療対応マニュアル」を関係機関と定めている。町医師会、薬剤師会とも協定を結んでいる。

災害時の情報発信は

Q 避難についての課題と、課題解決に向けた対策は。

A 町長 個人個人が住んでいる場所の危険状況を把握してもらいたい。自助への心構えを。町職員も被災することも考え、防災ネットワークしもすわなどの団体との協力が不可欠。

災害ボランティア

Q 災害廃棄物の保管、処理は。

災害対策の強化は

Q 災害対策について職員の意識改革が必要と思うが。

A 町長 各地の災害発生で職員の意識は高まっている。訓練や各地区担当職員を活用して行っていく。

災害とリーダーシップ

Q 町長を対象とした危機管理セミナーへの参加状況は。

A 町長 R3年は直接参加のセミナー、R4はリモートによる個

能登の廃棄物処理場

A　町長　自然災害が多い中で、廃棄物処理は重要になる。車中避難の増加により仮置き場の設定に苦慮すると「能登地震」派遣の職員からの助言もあり今後は重視していく。

Q　災害時においてNGOなど各種活動団体の具体的な受入れ体制は。

A　総務課長　災害時の初動段階では人命救助を優先に、関係団体への応援要請を行い、その後の被災状況等に応じてNGO等との連携を図る。

A　保健福祉課長　災害ボランティアセンターの活動を円滑にするため、社協と協定を締結し、設置運営訓練を行った経過もある。

災害時の妊産婦への配慮は

Q　避難所における妊産婦への配慮は。

A　総務課長　環境変化によるストレス、精神的に大変になるので配慮は必要。

Q　避難所運営マニュアルでの妊産婦配慮事項は。

A　総務課長　個別マニュアル対応や他の計画は見直しなどを行っていきたい。

Q　妊産婦を含めた訓練の状況は。

A　総務課長　コロナ禍では行っていないが、それまでは総合防災訓練で行っていた。生活弱者や要配慮者への対応は必要。

Q　避難所における妊産婦へのプライバシー保護についての対応は検討されているか。

避難所での妊産婦への配慮

A　総務課長　避難所として、下諏訪体育館の場合、1階剣道場を妊産婦専用スペースとして、その他にも授乳室や相談室の用意を想定している。配慮の必要な方への対応を各施設で行えるように防災士を通して対応していく。

Q　町内避難施設の設置箇所数は。避難施設の耐震化の状況は。

A　総務課長　町避難施設は45か所。そのすべてが耐震化を完了している。

Q　空き家の除去工事は。

A　建設水道課長　空き家はR6年度に策定した計画に基づいて、周囲に影響のある建物への除去工事に対する補助金制度を利用していただきたい。R6年は町の宅建協会と空き家説明会により周知を図るとともに、発災時の安全対策を行っていく。

防災意識向上に向けて

Q　子育て世代の防災意識向上のため、町が実施する施策は。

A　総務課長　子育て世代に特化したものは無いが、社中の生徒、保護者を対象にした、防災士の講演や防災キャンプの開催を予算化している。

防災備蓄品の充実を

Q　赤砂崎防災公園での防災拠点としての設備の設置状況は。整備計画はあるか。

A　建設水道課長　ヘリポートや備蓄倉庫、備蓄品、災害時トイレなどを整備済みであり、新たな整備計画は現時点ではない。今後災害時に有効な機材の採用があれば対応していくが、現状は維持管理を行っていく。

Q　消防団との協力体制の現状はどうか。

A　町長　安心安全の心強い味方。災害時は中核となっており大切な組織である。

防災公園である赤砂崎公園

生活支援

にほんきょうさんとう
日本共産党

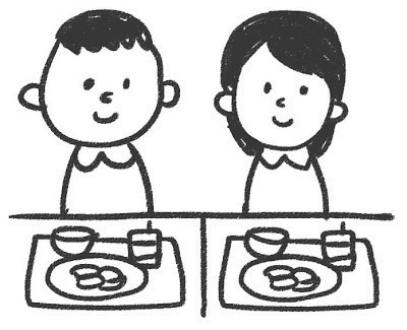
花岡　進
金井　敬子
松井　節夫

前半　後半

小中学校給食費無償化を

答弁　中3無償に　他は値上げ分補助

Q　中学3年生の給食費無償化は、「無償化は財源の点から困難」との考えからの転換か。



中学３年生から給食費無償化へ

A　**町長**　少子化対策、子育て支援の一つとして、進路決定を控えた中3保護者の負担軽減を公約に加えた。方向転換ではなく、これまでの給食費補助を、より推進するということ。

Q　対象学年拡充の考えは。

A　**町長**　全学年無償化は、財政的に困難。自治体で解決できる課題ではなく、国の動向を注視。

Q　宮坂町長2期目の公約の中で、強調したい点は。

A　**町長**　「女性・若者が集い、元気な声がひびくまちづくり」。人口減少、少子高齢化は、当町においても喫緊の課題。子どもの居場所、多世代交流施設の設置を進めたい。

町民生活への支援を

Q　物価高騰に苦しむ町民生活への直接的支援として、「福祉灯油」実施の考えはないか。その財源に「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」の活用を求めるが、いかがか。

A　**町長**　灯油支援も含め交付金推奨メニューは様々で、内容に変更もあり得るため、正式通知を待って検討したい。

トップセールスを期待

Q　予定どおりの来年度内のイオン開店に向けてのやり取りは。

A　**町長**　先方からその都度報告を受けているが、開店時期の明確な回答はない。引き続き、連絡を密にして早期開店を求めていく。

Q　「観光の町しもすわ」を目指すために、収容人数の多い宿泊施設誘致を求める声があるが。

A　**町長**　現在町には中小22の宿泊施設がある。収容人数は多くないが、風情のある宿泊施設は大切にしていきたい。ホテル誘致には課題も多いが、条件が整ってくれば誘致に向けて活動したい。

Q　誘致場所として、赤砂崎の開発公社の空き地が考えられる。その際、今あるバスケットコートゴールに加えて、スケートボードなどができる場所を設置すれば湖畔の観光資源として有効ではないか。さらに、砥川先の浅瀬を利用し冬季に氷上歩きができるようにするのはどうか。

A　**町長**　氷上歩きは安全上難しいが、観光として考えられなくはない。提案は、グランドデザイン策定の中で考えていきたい。

2017年閉館した山王閣

Q　春宮前の整備、駐車場確保については、いかがか。

A　**町長**　土地の売買や借用には、所有者の意向もあるので丁寧に交渉していく。周辺の個人駐車場の活用も、検討したい。

災害への備え　更に

Q　災害時避難所となる公民館へのWi-Fi環境の整備や、排泄物を個別密封できるトイレを、補助対象にできないか。

A　**総務課長**　プリペイド型Wi-Fiについて研究する。後者は、

一般質問

学校教育

はやし　もとお
林　元夫

小中一貫校制導入は

答弁　当面4校制で「学校分離型小中一貫校」

Q　小中学校の不登校、いじめや学級崩壊等の現状と対策は。

A　**教育長**　11月末時点で30日以上の欠席者は、小学校では1校平均4名、中学校は1学年平均4名。いじめ認知件数は小学校2件、中学校4件。学級崩壊は小中学校のいずれもない。不登校対策は特別支援学級や心の相談室の活用など。いじめ対策としては生徒指導係による情報収集や事実確認、児童生徒へのアンケートなど実施。

Q　生徒数の減少に対応する学校の在り方の検討を。

A　**教育長**　当面4校制で。南小と下中、北小と社中で建物は違うが「小中一貫校」の考えで取り組んでいる。「小学校の教科担任制の導入」も一部で導入している。

学校の子どもたちは今…

地区自治の課題は

Q　町内会加入を義務づける条例の制定は。

A　**総務課長**　条例制定は過去の判例により難しい。加入・未加入者の不公平感が大きな課題。加入のメリットなどをより分かりやすく広報する。

3分の2、30万円を補助上限としてメニューに加える。

Q　私有地の危険木除去に係る費用への補助を。

A　**建設水道課長**　他自治体の補助内容を見て検討したい。

保険証廃止に伴う対策は

Q　12月2日、保険証の新規発行が停止された。マイナンバーカードを保有しない方やマイナンバーカードを保険証として紐づけしていない方への「資格確認書」の発行は、申請がなくても可能か。

A　**住民環境課長**　国の通知に従い、当面の間は申請なしで可能。

現行保険証は有効期限まで使用可能

Q　マイナ保険証登録の有無に関わらず、国保加入者全てに「資格確認書」を交付できないか。

A　**住民環境課長**　町の判断でできることではない。

Q　「資格確認書」が、本人確認の書類になるのか。

A　**住民環境課長**　本人確認書類になる。

インボイス事業者支援を

Q　R5年10月1日から導入されたインボイス制度により、消費税の負担増や事務作業の負担増なども加わり、個人事業主や中小企業は事業継続に困難を抱えている。直接支援を、検討できないか。

A　**産業振興課長**　困難事例は承知しているが、町の金銭的支援は難しい。

Q　町や商工会議所などへの相談状況は。

A　**産業振興課長**　申告相談は増加している。

Q　納税相談を受ける体制の充実を。

A　**産業振興課長**　税申告は事業者にとって大きな負担。商工会議所と連携し国の特例措置の広報や相談体制を充実させたい。

一般質問

子育て支援

おおはし かずこ
大橋 和子

子育て支援や居場所づくりは

答弁 今後の予算編成で具体化したい

Q 子育て支援や子どもの居場所づくりを。

A 町長 未満児保育の体制強化、SNSを使用したオンライン相談体制の構築や居場所づくり支援などをする。支援団体から資金などの課題を聞き、今後の予算編成で具体化したい。

Q グランドデザインから未来のしもすわを描く取り組みは。通路に蛍光タイルを敷き詰め安全を図ることやピクトグラムで歩きやすい町にするなどを参考に。

A 町長 未来のあるべき姿を重点的に定め、まちづくり資金を後押しするためのファンド設立を考えている。

Q 島木赤彦記念事業実施は。

A 産業振興課長 R8年は赤彦の節目の年。文芸家、教育者の赤彦の足跡をたどり生涯の友であった平福百穂にも目を向け、内部で検討を進めている。

Q デコ活についての考えは。

A 住民環境課長 R6年6月30日よりクールチョイスに続き、地球環境に優しい取り組みをしている。太陽光エネルギー、温泉熱、LED活用などの脱炭素計画などを推進していく。

デコ活：脱炭素につながる国民運動

育休退園

のざわ ひろこ
野沢 弘子

授乳や上の子の育児で大変

答弁 育休退園廃止の方向で考える

Q 授乳や上の子の育児は大変。育休退園制度の廃止は。

A 町長 育休退園は廃止の方向で考えている。ただ未満児保育の利用増により、保育士不足が深刻化しているので、保育士確保に向けて処遇改善を最優先に行う。

Q 小中学校の給食費の値上げが予定されているが、保育園はどうか。

A 町長 副食費の値上げは検討していない。3歳以上児は国から示された公定価格を目安に徴収している。R6年度は物価高騰から4800円という公定価格が示されたが町は4500円を維持している。

Q SNSを活用したオンライン相談サービス（小児科・産婦人科）の構想は。

A 町長 次年度すぐに予算化して事業を始めるのは難しいが、できるだけ早い時期にスタートしたい。

Q 18歳までの子ども医療費無償化が実現しているが、診療の際の1レセプト500円の窓口完全無償化の実現をして欲しい。

A 町長 国・県の意向や近隣市町村との均衡も考慮し検討する。

見守ってくれてありがとう

一般質問

二地域居住

とよしま 豊島 たけゆき 健之

国の支援制度の利活用は

答弁 活用に向けて研究していきたい

Q 改正広域的地域活性化法施行に伴い、政府が進める「二地域居住」に関する様々な支援の利活用をどの様に考えるか。

A 産業振興課長 市町村が「特定居住促進計画」を策定することで、予算面での支援が受けられる点が、本法改正の重要なポイントと承知している。策定には、県や庁内他課との連携が必要。制度内容の把握等、既存政策との整合を取りながら活用・研究を進める。

町政運営に向けて

Q 町長公約の「まちづくりファンド設立」への町長の思いは。

A 町長 これからのまちづくりや都市開発事業は、行政だけでなく民間の事業者や住民に主体的に関わって頂き進めて行くことが必要。その具現化に要する資金調達の一方法として行政から提案できたらと考えている。

町内危険区域の解消

Q 所管行政庁への要望は。

A 建設水道課長 諏訪建設事務所には、住民から情報が寄せられた都度、改修要望を上げている。他にも県議会危機管理建設委員会による現地調査や市町村ヒアリング等の機会も利用している。

町内危険区域の早期解消を！

不登校支援

たけもと 竹元 かんな 完奈

支援ブック作成後の周知は

答弁 町HPや各学校、中間教室等で周知

Q 学びの支援サポートブック作成の経過は。

A 教育長 今までは、まとまった不登校支援情報がなく、迅速な支援に繋がりにくかった。小金井市の不登校支援冊子を参考に、諏訪6市町村が連携。今年度協議を重ね、11月21日学びの支援関係者懇談会において完成した。

Q フリースクール等通所補助制度の導入検討は。

A 教育長 経済状況で利用を控えることにならないよう今後、予算編成で検討していく。

居場所づくりの予定は

Q 今後の子どもの居場所や多世代交流拠点の整備予定は。

A 町長 子どもの居場所づくりは喫緊の課題。今後予算編成を通して具体化していく。多世代交流拠点は、イオン活用や駅及び周辺の活用も含めて、町内を面として捉え、施設整備の検討を行う。

Q 民間団体等との協働は。

A 町長 今後も支援者と継続的な懇談の場を設けていく。新年度予算編成において、新たに子どもの居場所づくりへの支援の形を検討するように指示をしている。

学びの支援サポートブック

一般質問

身近な行政

青木 利子（あおき としこ）

住民の声どう聴いていくか

答弁 今後も住民の声を聴く場づくりを

Q 町民が行政を身近に感じられる政策をどのように考えるか。

A 町長 おでかけ町長室や各種検討委員会議などで住民意見を踏まえ、政策を進めていく。

Q 町内企業と就職希望者とのマッチング制度の導入は。

A 町長 雇用情報の提供や発信をする中で「地方版ハローワーク」のような制度の確立を研究する。

やまびこの会紹介

Q 音訳ボランティアグループ「やまびこの会」の活動や、録音図書が一般町民も活用できることを周知して欲しい。

A 教育こども課長 活動状況や利用方法を掲載したパンフレットを、諏訪地域6市町村の社会福祉協議会や福祉施設に配布。「クローズアップしもすわ」にも掲載。

旧矢崎商店の価値は

Q 旧矢崎商店の調査研究は。

A 町長 信州大学の協力で建物調査が進んでいる。登録有形文化財指定に向けた客観的な価値づけの根拠や、文化的価値を考慮した改修方針を判断するための重要な材料とする。

信大生による旧矢崎商店の調査報告

議会と各種団体との懇談会

ままのわ 子育て応援フェス

11月24日(日)下諏訪総合文化センターにて開催された、信州ままのわ主催「子育て応援フェス」内の企画で、子育て世代の方々と議員との懇談会に、議員有志6名が参加しました。

子育て世代の方々に、最初に議会の仕組みについて等を簡単にお話した後に、3つのグループに分かれ、子育てに関する悩み事や町の「こうなったらいいな」を全員で付箋に書き出して、テーマごとに活発な懇談が行われました。

出された主な意見は、子どもの居場所づくりや保育園の育休退園・保育士待遇是正・病床保育などについて、小学校、学童、不登校支援、給食や医療費などについてが挙げられました。

町長にも議員と一緒に参加していただきました。

子育て当事者の貴重な声を聴くことができ、ご意見を参考に12月定例会の一般質問にて、町に問いかける議員もいました。

町民にとって、議会や町が少しでも身近な存在と感じていただけるように、今後も積極的に出向く機会を作っていきたいと思います。

議会と各種団体との懇談会

ものづくり支援センター

10月4日(金)町役場全員協議会室にて、ものづくり支援センターしもすわ細谷理事長以下5名の役員と懇談会を開催しました。

ものづくり支援センターしもすわは、下諏訪のものづくりの支援・連携・情報発信のための拠点として事業を行っています。町内企業をひとつの会社「(株)下諏訪」と考え、様々な企業や組織をひとつの会社のように連携・機能させ、下諏訪のネットワークで「ものづくり総力体制」を構築しています。

町内企業の特色は、石器時代の黒曜石の加工技術から始まり、戦前戦後は蚕糸産業、その後精密微細加工とものづくりの分野で発展し、高度でユニークな技術を持つ中小企業が156社集積しているとのことです。

センターの主な活動は、受発注拡大サポート事業として、マッチング案件紹介、展示会出展支援、商談会参加支援を行っています。また情報発信・情報収集活動としては、DX化推進支援や企業動向調査を行っております。

昨今製造業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、景気の悪化と深刻な人材不足に対してどのような支援が出来るかがテーマとなっており、外国人の積極採用や移住者向けの企業紹介等の取り組みについて活発な議論が交わされました。

下諏訪町地域開発公社 観光振興局

10月8日(火)町役場全員協議会室にて、(一社)下諏訪町地域開発公社観光振興局との懇談会を開催しました。

観光振興局は、開発公社内に観光に特化した組織として平成23年度に立ち上げられ、その後「地域の稼ぐ観光」を実践する組織として、令和3年度から観光推進部を設置し、主に収益事業である下諏訪発着の旅行企画「着地型旅行商品」の実施に取り組んでいます。

本年度は、第3次観光振興計画で掲げる「住んでよし、訪れてよしの観光都市しもすわへ」の実現を目指して、観光を担う人材育成や、この地域の魅力を活かした高付加価値な旅の提案を行っています。「あなたの旅をデザインする」をテーマに、下諏訪町を中心とした、町を学び楽しむことができる観光体験プログラムやツアー等の商品企画・販売をしています。今後は、新たな観光振興計画への理解・協力を得て、観光による持続可能な地域づくりを目指します。

収益のみを目指す観光だけではなく、公益的な事業も行う持続可能な観光・地域づくりの為に何が必要か、人材不足に対する育成はどうするか、町内の旅行会社との連携や観光・温泉は下諏訪、宿泊は諏訪、農業体験は茅野・原村といった広域的な連携の可能性や黒曜石繋がりでの長和町との連携といった取り組みについて議論が交わされました。

下諏訪商工会議所

11月11日(月)町役場全員協議会室にて、下諏訪商工会議所との懇談会を開催しました。

商工会議所は、令和7年度に向けて地域産業の課題解決支援として、地域経済対策事業及び産業振興・地域活性化対策を促進するため9項目・29事業について町に要望を上げています。懇談会では、特に強い要望がある町の工業振興や観光振興、成長性が高いIT企業等の積極的な企業誘致についての意見交換がありました。

工業振興をテーマにした際には、「町の魅力をPRするという観点からは『稼ぐ観光』に力を入れるというのも分かるが、実際町の収益源は主に『工業』が担っていることを勘案すると、工業にもっと財源配分を行うべきではないか」という意見がありました。

観光振興では、「後継者難の既存の観光業者に対して、第三者への事業承継も含めた対応が必要ではないか」との意見がありました。

企業誘致では、「少ないスペースで若い人達を雇用でき、付加価値の高いアウトプットが可能なソフトウェア産業の誘致が必要」との意見がありました。

行政視察報告

３つの委員会で、行政視察を行いました。
行政視察とは、町や議会の直面する課題について、
高度で専門的な見識を得るため先進地に赴き、
その地域の実情・事例を調査することです。
テーマごと先進自治体や議会に事業の取り組み等を伺ってきました。

文教厚生委員会

- 岐阜県岐阜市
- 兵庫県稲見町
- 兵庫県明石市
- 兵庫県淡路市

議会運営委員会

- 神奈川県愛川町
- 神奈川県鎌倉市
- 神奈川県湯河原町

総務経済委員会

- 宮城県石巻市
- 宮城県南三陸町

議会運営委員会

議会改革

愛川町議会のみなさんと

11月5日～7日の2泊3日で、議会運営委員会の行政視察を行いました。訪問先は神奈川県の愛川町、鎌倉市、湯河原町で、議員定数削減や議会改革に関する取り組みを学びました。

1日目の愛川町議会では、人口3万9427人、議員定数14名の町で、1999年から2024年までに議員定数を22名から14名に削減したことを伺いました。議員定数削減には、議員個々の政策立案能力の向上と意識改革が必要であると強調されました。

2日目は鎌倉市役所へお伺いしました。こちらは議会改革度ランキングでは上位の評価を受けております。鎌倉市ではオープンミーティングや議会報告会を活発に開催しています。

市内5会場で行ったオープンミーティングでは、法政大学大学院の講師をファシリテーターとして招き、ワールドカフェ方式で進行。103名が参加し、1200件以上の意見が集まりました。今後は若者や女性の参加促進方法を検討中です。

最終日は湯河原町役場を訪れました。人口2万3千人、議員定数14名の町で、傍聴者増加に向けて広報誌やHP、コミュニティラジオを活用していました。特に印象的だったのは、議員の平均年齢が51・4歳で、若手議員が活躍している点です。議長が43歳で6期目を迎え、議会運営委員長が35歳の3期目という若い力が感じられました。

全体を通して、各市町それぞれカラーがあり、下諏訪町としても下諏訪カラーを作っていかなければと痛感しました。視察で学んだ内容を、今後の議会運営に生かし努力して参ります。

総務経済常任委員会

防災

10月1日～3日に総務経済常任委員会の行政視察に行って参りました。宮城県石巻市、南三陸町を訪れ、災害時の状況と災害からの復興について学びました。

石巻市役所では、震災の状況と復興の取り組みについての説明を受けました。議会の災害対策本部は、被災地の状況や住民の声を吸い上げ市の災害対策本部情報を共有するという役割分担がしっかりとなされていたとのことです。

また同市の震災遺構である門脇小学校では、被災状況をそのまま保存した本校舎と展示物を見学しました。津波火災で焼け焦げた教室や津波でぐちゃぐちゃになった消防車等を見て、改めて当時の惨状を窺い知ることが出来ました。

南三陸町でも、震災の状況と復興の取り組みについての説明を受けました。同町は震災時高さ24mの津波が町を襲い、町内住宅の62%に当たる3321戸が罹災したそうです。防災対策庁舎は全て津波にのみ込まれ、当時屋上に避難していた職員53名中43名が亡くなり、生き残った職員は僅か10名であったとのこと。限られた職員・人員で復興の道筋を付けていかなければならなかった。その為に必要なモチベーション、現実的な手法等色々と考えさせられました。町長他生還した職員は、放心状態の中、多くの方の支えを得て、何とか初動を乗り切れたとのこと。亡くなった同僚の為にも復興を頑張り、11年かけてなりわいと賑わいを取り戻したそうです。

生活文教常任委員会

教育×環境

生活文教常任委員会では、10月28日～30日行政視察を行いました。

1日目の岐阜市みんなの森ぎふメディアコスモスは、「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる伊東豊雄氏設計の複合文化施設です。平日の日中にも関わらず、市民の憩いの場として学生も多く利用していました。

2日目午前兵庫県稲見町の加古小学校では、令和4年度より「チーム担任制」を導入しています。チーム担任制とは、1・2年生を2人の先生で、3年生～6年生を5人の先生で担任を持ち、1週間ごとに学級担任が交替する制度です。大きな失敗になる前に、みんなでカバーし合うことができ、先生の事務的、精神的負担軽減にもなり、問題を早期に発見、解決できる最適な制度だと伺いました。

午後は明石市の第2子以降保育料無償化と、おむつ定期便・0歳児の見守りについて伺いました。明石市は、2012年からこどもを核としたまちづくりを進め、12年連続人口増を達成している中核市です。子育て世代を市が全力で応援することで、出生率も全国平均や兵庫県平均よりも高い数値となっています。

3日目の淡路市は、脱炭素モデル事業が環境省より評価され、脱炭素先行地域に選定されています。(株)ほくだんが展開する県内初の地域新電力「あわぢから」を中核に据えた事業です。この取り組みによりエネルギーの地産地消を進めてエネルギー及び経済の自立化、強靭化、安定化を図り、淡路市のコンセプトである「いつかきっと帰りたくなるまちづくり」の実現を目指しています。

下諏訪ぎかい Vol.46 2025.2.14 発行

この町に住んで思うこと

「移住者にもやさしい町」

生まれは東北岩手です。上京後結婚し、夫の転勤で下諏訪に移住して早三十年弱経ちました。最初は時限的なものと賃貸アパートに住んでいましたが、近所の方々から子供共々本当に仲良くして頂きましたので、近隣に良い物件が出た際には、「これもご縁」と、迷わず購入して現在に至ります。

夫が転勤で神奈川に戻ることになった際には、子どもたちは「下諏訪の方が良い」と下諏訪に残り、夫だけが単身赴任をしました(笑)。そんな子どもたちも都会に出てしまい、現在は二人ですが、最近千葉にいる息子がUターンを考え始めているようですので、戻ってきてくれたらと楽しみにしています。

町議会は、見知った方が何人も議員になられたので、とても身近に感じられるようになりました。お話会や懇談会を開いて、町民との対話に努める姿勢は良いですが、その次のアクションがない(弱い)ように感じますので、「聞いて」「対応する」議会であったら素晴らしいと思います。　（インタビュアー　豐島）

三区在住　島田 博子

～議長のつぶやき～

議員は、委員会別に見識や見聞を広げるための視察研修を行っています。八丈島から視察に来町された東京都八丈町議会があります。防災活動に関心を寄せていただきました。当町議員３名、防災ネットワークしもすわ４名、町職員３名にて、運営内容を説明いたしました。ユーモアのある防災漫才を含め、細部にわたりお話ししました。行きたい町、視察、研修に訪れたい町をめざし頑張って参ります。

議長　樽川信仁

発行・編集　下諏訪町議会
下諏訪町　議会だより　で検索

編集後記

この委員での議会だより編集もあと１回。この2年弱、試行錯誤しながらより多くの町民の方々の目にとまり、読まれやすくなるように、デザイン面で工夫してきました。議会前の準備、印刷会社の方との事前すり合わせ、議会中も議会が終わってからもずーっとデザイン編集の作業をしています。少しでも町民の皆様にとって議会が身近になりますように。（かんな）

広報特別委員会

委員長	林　元夫	副委員長	竹元完奈
委　員	髙橋幸二	委　員	大橋和子
委　員	豐島健之	委　員	野沢弘子

SNSはじめました

住民により身近な開かれた議会を目指し、SNSをはじめました。
議会の日々の活動や最新情報はSNSをご覧ください。

Facebook➡
⬅Instagram

次回の定例会開催予定
2月25日～(予定)

ぜひ傍聴にお越しください。
詳細は議会HPをご覧ください。

TEL 0266-27-1111　FAX 0266-27-1237
Email gikai@town.shimosuwa.lg.jp